

1. 社会・治安情勢

- (1) 10月30日に実施された大統領選挙決選投票において、左派の元大統領のルーラ氏が、現職で右派のボルソナーロ氏に勝利した。ボルソナーロ大統領は、翌31日も敗北宣言をせず、沈黙を貫いたが、その間、ボルソナーロ氏の支持者は選挙結果に抗議し、伯全国230カ所以上で道路を封鎖したため、裁判所の決定に基づいて警察が排除に乗り出すなどした。
- (2) リオ市内においても、セントロ地区の陸軍本部前においてボルソナーロ支持者たちが集結し、連日、選挙結果への抗議を行ったが、幸い抗議活動が過激化することはなく、リオ市において大きな混乱は生じなかった。
- (3) 大晦日には、年越しを祝う恒例の花火大会がコパカバーナ海岸で開催され、多くの観光客で賑わったが、大きな混乱もなく、比較的平穏に2023年を迎えた。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) リオ州公安統計院（ISP）によれば、2022年度第3四半期（10～12月）中のリオ州内における殺人事件発生件数は、790件で、前期（2022年度第2四半期）と比べて約1.5%微増した。
- (2) また、リオ州内における強盗事件発生総数は、27,965件（前期比+1.6%）と微増し、2021年度第3四半期（10～12月）から4期連続で増加傾向が継続している。手口別では、特に屋外での強盗（車両強盗、通行人強盗、携帯電話強盗）件数の増加が認められた。
- (3) 特に、携帯電話を狙った強盗事件の発生件数は、過去5年で最も高い水準で推移しており、今期の発生件数は4,128件（前期比-6.1%）、前年度同期（2021年度第4四半期：10～12月）と比べると約21%増加で、日常生活における警戒が必要である。

3. リオ州犯罪発生状況（2021-2022年度）

	2021年度		2022年度	
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
	(1～3月)	(4～6月)	(7～9月)	(10～12月)
殺人	776	709	777	790
強姦性交等	1,384	1,358	1,482	1,403
商業施設強盗	675	622	610	607
住居侵入強盗	184	197	214	222
車両強盗	5,787	5,920	6,265	7,240
通行人強盗	9,976	9,971	9,939	9,192
交通機関内強盗	1,711	1,827	1,733	1,574
携帯電話強盗	3,740	3,929	4,400	4,128
強盗総数	26,387	26,549	27,536	27,965
窃盗総数	39,114	40,718	42,051	40,203
取扱件数	189,823	190,850	199,685	193,537
※警察介入の際の致死事件	341	308	368	310

4. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

（1）車両強盗（リオ市ポタフォゴ地区）

10月2日午後8時30分ころ、在留邦人も多く利用するポタフォゴ地区のショッピングモール「ショッピング・リオ・スル」屋内駐車場において、買い物帰りの女性が車に乗り込もうとした際に、刃物を持った男に襲われる強盗未遂事件が発生。女性は抵抗し、手やじん帯を切る怪我を負った。

（2）強盗殺人（車両強盗）の連続発生

10月25日、26日、リオ市内からガレオン国際空港への主要経路であるブラジル大通りににおいて車両強盗が連続で発生し、それぞれ犯人から銃撃を受けた被害者が死亡した。

（3）路上強盗（リオ市ポタフォゴ地区）

11月2日の日中、オートバイに乗った二人組の犯人による強盗事件が発生。犯人達はけん銃で武装しており、通行車両を止めて金品を強奪した。

（4）車両強盗（リオ市内ポタフォゴ地区）

12月10日午後11時45分ころ、在留邦人も多く利用するポタフォゴ地区のショッピングモール「ショッピング・リオ・スル」付近の路上において、けん銃武装した犯人による車両強盗が発生。被害者が、家族を乗せるため自宅マンション前路上で路上駐車していたところ被害に遭った。

5. テロ・爆弾事件発生状況
事件の発生は認知していない。

6. 誘拐・恐喝事件発生状況
邦人被害は認知していない。